



南大東島から得られた国内 5 例目のクロホシゴンベの記録

野澤ヒカル¹・中村潤平²・本村浩之³

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院農林水産学研究科（鹿児島市）
k0846021@kadai.jp

² いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）
j-nakamura@ioworld.jp

³ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 07 August 2026
Revised 17 August 2026
Accepted 17 August 2026
Published 19 August 2026
DOI 10.34583/ichthy.70.0_25

Hikaru Nozawa, Jumpei Nakamura and Hiroyuki Motomura. 2026. Fifth Japanese record of *Amblycirrhitus unimaculatus* (Centrarchiformes: Cirrhitidae) from Minami-daito-jima island, Daito Islands. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 70: 25–28.

Abstract

A single specimen (114.9 mm standard length) of *Amblycirrhitus unimaculatus* (Kamohara, 1957) (Cirrhitidae) was collected from Minami-daito-jima island, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan. The species is known only from Japan, Taiwan, Tonga, the Samoa Islands, and the Austral Islands, the Japanese records including from Tanega-shima, Kikai-jima, Iriomote-jima, and Yonaguni-jima islands. Therefore, the present specimen, described here in detail, represents the first record of the species from the Daito Islands as well as the fifth record of the species from Japanese waters.

ゴンベ科クロホシゴンベ属 *Amblycirrhitus* Gill, 1862 は、三大洋に分布し、フタホシゴンベ *A. bimaculatus* (Jenkins, 1903), *A. earnshawii* (Lubbock, 1978), *A. oxyrhynchus* (Bleeker, 1858), *A. pinos* (Mowbray, 1927), およびクロホシゴンベ *A. unimaculatus* (Kamohara, 1957) の 5 有効種が知られている (Randall, 1963, 2001; Rocha, 2016). そのうち日本からはクロホシゴンベとフタホシゴンベの 2 種が記録されている (林・萩原, 2013; 本村, 2026).

2026 年 3 月に沖縄県大東諸島南大東島で 1 個体のクロホシゴンベが釣獲された. 本種は日本を含む太平洋から散発的な記録のみが知られる稀種であり (Randall, 1963; Wass, 1984; 瀬能・矢野, 1996; Shinohara and Shibukawa,

1998; Randall et al., 2004; 林・萩原, 2013; Siu et al., 2017; Motomura, 2023), 南大東島から得られた標本は日本で 5 例目の記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) と Shinohara and Shibukawa (1998) にしたがった. 標準体長 (standard length) は, 体長または SL と表記した. 体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位までおこない, 計測値は体長に対する百分率で示した. 生鮮時の色彩は固定前に撮影された南大東島産標本 (KAUM-I. 223210) のカラー写真 (Fig. 1) を基に記載した. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている. 本研究で用いた研究機関略号は, BSKU (高知大学理工学部海洋生物学研究室), KAUM (鹿児島大学総合研究博物館), および NSMT (国立科学博物館) である.

Amblycirrhitus unimaculatus (Kamohara, 1957)

クロホシゴンベ

(Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 223210, 体長 114.9 mm, 沖縄県島尻郡南大東村 亀池港 (25°48'46"N, 131°14'06"E), 水深 10 m, 釣り, 2026 年 3 月 8 日, 中村潤平.

記載 計数値と体各部の体長に対する割合は Table 1 に示した. 頭と体側は楕円形で, 側扁する. 体背縁は吻端から背鰭第 2 棘基底にかけて上昇し, そこから尾柄部にかけて緩やかに下降する. 体腹縁は下顎前端から腹鰭基底前端にかけて緩やかに下降した後, 腹鰭基底後端のやや後方までわずかに上昇し, そこから臀鰭起部にかけてわずかに下降し, 以後は尾柄部まで緩やかに上昇する. 体高は腹鰭基底前端で最大になる. 吻は尖り, 口は端位で大きい. 上顎前端は下顎前端よりもわずかに突出する. 上顎後端は眼の



Fig. 1. Fresh specimen of *Amblycirrhitus unimacula* (KAUM-I. 223210, 114.9 mm SL) from Minami-daito-jima island, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan.

前端直下よりわずかに後方に位置する。唇部は肥厚する。上顎内側の外縁にはやや小さな犬歯状歯が1列に並び、その内側には9列の小さな円錐歯からなる歯帯がある。上顎前端には、2対のやや大きな犬歯状歯がある。下顎前端には2対のやや小さな犬歯状歯が並び、その内側には7列の小さな円錐歯からなる歯帯がある。下顎中央付近には、4対の犬歯状歯がある。上顎と下顎の犬歯状歯は内側を向く。鋤骨には円形の小さな歯帯があり、口蓋骨には微小な円錐歯が不規則に並ぶ。舌先はやや尖る。眼はほぼ円形で、頭部の上部に位置する。瞳孔と虹彩は前後に長い楕円形。眼隔域はわずかに凹む。鼻孔は2対で、ともに眼の前方に位置する。鼻孔はいずれも円形で、前鼻孔の後縁には房状の皮弁が複数ある。涙骨後縁は露出しない。前鰓蓋骨後縁は微細な鋸歯状で、緩やかな弧を描く。主鰓蓋骨後縁は円滑。鰓耙は小さく、櫛状。背鰭起部は鰓蓋後端よりもやや前方に位置する。背鰭棘間の鰭膜は深く切れ込む。各背鰭棘直後の鰭膜先端には房状の皮弁がある。背鰭棘は第6棘が最長で、第1棘が最短。背鰭第9棘は第10棘よりも短い。背鰭軟条は第1軟条が最長で、第11軟条が最短。背鰭軟条はすべて分枝し、最後軟条は基底から二叉する。胸鰭基底上端は背鰭起部直下よりやや前方に位置し、胸鰭基底下端は背鰭起部直下よりやや後方に位置する。胸鰭後端は、臀鰭起部より前方に位置する。胸鰭軟条は第2-8軟条を除き不分枝で、第9-14軟条は肥厚する。胸鰭軟条は第11軟条が最長で、第1軟条が最短。腹鰭起部は、背鰭第4棘直下とほぼ同位。畳んだ腹鰭後端は、肛門に達しない。臀鰭起部は背鰭第2軟条直下に位置し、臀鰭基底後端は背鰭第8軟条直下に位置する。臀鰭棘条は第2棘が最長で、第1

棘が最短。臀鰭軟条は第2軟条が最長で、第6軟条が最短。臀鰭軟条は第1軟条を除き分枝する。尾鰭は概ね截形で、後縁中央部はわずかに湾入する。肛門は円形で、畳んだ腹鰭後端と臀鰭起部のほぼ中間に位置する。頭部と体部は円鱗に覆われ、前鼻孔より前方の吻部のみ無鱗。頬部には体側鱗よりも小さい鱗が4列並ぶ。主鰓蓋骨上は体側鱗と同大の鱗に覆われるが、最後方の1枚はその他と比較し明瞭に大きい。眼隔域には体側鱗よりやや小さな鱗が4列ある。側線は完全で、鰓孔上端から尾鰭基底までほぼ直走する。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 体の地色は淡い灰色で、頭部を除く体側には不明瞭な10本の茶褐色横帯が不規則に並ぶ。虹彩は黒みがかった朱色を呈し、眼の上縁と下縁前部は赤い。背鰭棘部の鰭膜は灰色で、不定型の赤茶色斑が散在し、中央部では斑同士が接合し、帯状になる。各背鰭棘の直後にある房状の皮弁は前端のみ朱色がかった淡黄色で、それ以外は淡黄色。房状皮弁の基底は黒色。背鰭軟条部の地色は半透明な暗灰色で、各軟条上の朱色斑に由来する不連続な斜帯が3本ある。各背鰭軟条の基底付近には、茶褐色の斑が規則的に並ぶ。背鰭第7-10軟条の基底には、眼径とほぼ同大の黒色斑があり、その周囲は淡い灰色で縁どられる。胸鰭の鰭膜は白色半透明で、各軟条は朱色を呈するが、第1-9軟条はややくすむ。各胸鰭軟条の基底付近には、茶褐色斑に由来する不連続な横帯が3本ある。腹鰭の鰭膜は白色半透明で、各軟条は淡黄色。臀鰭は黄色を帯びた灰色を呈し、先端ではやや黄色みが強くなる。臀鰭第2-5軟条の中央部には、淡い赤茶色斑がそれぞれ1つある。尾鰭の地色は半透明な灰色で、各軟条上の朱色斑に由来する不連続な横帯が5本ある。頭部の地色は淡い灰色。頬、

鰓蓋、および項部には、瞳孔とほぼ同大あるいはそれより小さな不定形の茶褐色斑が散在し、そのうち半数ほどは周囲の斑と部分的に接合する。胸鰭基部には眼径とほぼ同大、もしくはそれよりも小さな茶褐色斑が散在し、それらは前方へ向かうほど大きくなる。前鼻孔皮弁はわずかに朱色がかった淡い黄色を呈する。吻部には茶褐色の斜帯が3本ある。

分布 本種は日本、台湾（蘭嶼）、トンガ、サモア諸島、およびオーストラル諸島からのみ報告されている（Randall, 1963; Wass, 1984; Randall et al., 2004; 林・萩原, 2013; Siu et al., 2017）。日本国内においては、種子島（Motomura, 2023）、喜界島（Kamohara, 1957）、および与那国島（Shinohara and Shibukawa, 1998）から標本に基づき記録されているほか、西表島（瀬能・矢野, 1996）から写真に基づき記録されており、本研究によって新たに大東諸島南大東島からも記録された。

備考 南大東島から得られた標本は、吻が伸長しないこと、口蓋骨歯をもつこと、眼隔域が被鱗すること、頬部鱗列数が4であること、涙骨後縁が露出しないこと、前鰓蓋骨後縁が微細な鋸歯状であること、背鰭軟条数が11であること、各背鰭棘の先端付近に房状の皮弁があること、胸鰭の下方5軟条は不分枝であること、および尾鰭が截形であることが、Randall (1963, 2001) と Gaither and Randall (2012) の示したクロホシゴンベ属 *Amblycirrhitis* の標徴と一致した。さらに、本標本は胸鰭後端が臀鰭起部に達しないこと、側線鱗数が49であること、主鰓蓋骨上に黒色眼状斑を欠くこと、および各背鰭棘の先端とその後縁の鰭膜が黒色を呈することなどの特徴が、Randall (1963, 2001)、Shinohara and Shibukawa (1998) の示したクロホシゴンベ *A. unimacula* の標徴と一致したため、本種に同定された。

Shinohara and Shibukawa (1998) が示した本種の計測値は、喜界島産のホロタイプ（BSKU 6387、体長 67.8 mm）と与那国島産の一般標本（NSMT-P 55276、体長 53.4 mm）の小型2標本に基づいていた。そこで、大型標本である、南大東島産標本（体長 114.9 mm）と Motomura (2023) にリストされた種子島産の一般標本（KAUM-I. 139251、体長 126.4 mm; おそらく標本に基づく本種の最大記録）を加え、本種の成長に伴う体各部の比率の変化を調査した。その結果、本種は成長に伴い、眼径が相対的に小さくなる傾向がみられた（Table 1）。

Shinohara and Shibukawa (1998) は本種のホロタイプと与那国島産の一般標本を比較し、後者では上顎先端が下顎先端よりもわずかに突出すること（前者では下顎先端が上顎先端よりわずかに突出する）、畳んだ腹鰭の後端が肛門に達しないこと（腹鰭の後端が肛門に達する）、主鰓蓋骨下方の斑が前縁にのみ分布する（後縁にも2つ以上の茶褐色斑が分布する）ことを指摘した。Shinohara and Shibukawa (1998) は前述した3つの差異のうち、主鰓蓋骨上の色彩に関しては瀬能・矢野（1996）が示した西表島で撮影された本種の水中写真（全長約 150 mm）も参照した上で、前

Table 1. Counts and measurements (% of SL) of *Amblycirrhitis unimacula* from Japan.

	This study		Shinohara and Shibukawa (1998)	
	KAUM-I. 223210 Minami-daito-jima island	KAUM-I. 139251 Tanega-shima island	NSMT-P 55276 Yonaguni-jima island	BSKU 6387 (holotype) Kikai-jima island
Standard length (SL; mm)	114.9	126.4	53.4	67.8
Counts				
Dorsal-fin rays	X, 11	X, 11	X, 11	X, 11
Anal-fin rays	III, 6	III, 6	III, 6	III, 6
Pectoral-fin rays	14	14	14	14
Caudal-fin rays	15	15	15	15
Lateral-line scales	49	48	50	50
Scales above lateral line	5	5	5	5
Scales below lateral line	10	10	10	10
Gill rakers	6 + 12	6 + 12	6 + 12	5 + 13
Measurements (% of SL)				
Body depth	32.5	33.3	31.6	32.7
Pre-dorsal-fin length	37.8	37.7	37.6	37
Length of dorsal-fin base	53.1	56.7	51.9	54
Length of anal-fin base	14.4	14.7	13.9	14.5
Head length	34.9	37.3	36.9	36.1
Eye diameter	6.9	6.1	8.6	7.5
Interorbital width	5.2	5.1	4.9	5.5
Snout length	11.6	13.8	11.2	11.4
Upper-jaw length	13.3	14.3	14.2	13.8
Postorbital head length	18.2	18.3	18.2	18.4
Caudal-peduncle length	22.6	23.7	21.9	22.7
Caudal-peduncle depth	12.3	12.7	12.0	12.5

2 者を種内変異, 後者を成長変異と結論づけた。本研究において, 南大東島産と種子島産の標本を観察した結果, 両標本とも与那国島産標本と同様に上顎先端が下顎先端よりもわずかに突出し, 畳んだ腹鰭の後端は肛門に達していなかった。また, 主鰓蓋骨下方の斑は本種のホロタイプや西表島で撮影された水中写真の個体と同様に, 後縁まで分布していた。これらは Shinohara and Shibukawa (1998) の見解を支持するものであり, 本研究においても前 2 者を種内変異, 後者を成長変異と判断した。

クロホシゴンベの日本国内における記録は「分布」の項で述べた通りである。南大東島産標本は本種の日本で 5 例目の記録となるとともに, 大東諸島からの本種の初めての記録となる。なお, 南大東島産標本は同島南部に位置する外洋に面した岸壁で釣獲された。採集地点は岩礁に隣接する岸壁直下の水深約 10 m であり, 岩礁などの隙間に生息していた個体が釣獲された可能性が高い。本種は太平洋の島嶼域から散発的にのみ記録されている稀種であり, 生態に関する知見は乏しいが, 国内では南西諸島の岩礁域の浅場の間隙やタイドプールでの出現記録が報告されている(瀬能・矢野, 1996; Shinohara and Shibukawa, 1998)。そのため, 本種は島嶼域の岩礁浅所で隠遁的に生息していると推察され, 採集や観察がされにくいと考えられる。また, 本種は「分布」の項に示したように国内では南西諸島の一部の島から断片的に記録されているが, 南西諸島各地の前述のような環境には広く生息している可能性がある。

比較標本 クロホシゴンベ: KAUM-I. 139251, 体長 126.4 mm, 鹿児島県熊毛郡中種子町野間中山漁港堤防 (30°31'40"N, 130°59'35"E), 水深 3 m, 釣り, 2016 年 12 月 17 日, 鍋木紘一。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学大学院連合農学研究科の栗山顕太氏と出羽優風氏, Ichthy 担当編集委員の是枝伶旺氏, および匿名の査読者には原稿に対して適切な助言をいただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアの皆様には標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科 研 費 (20H03311・21H03651・22K02161・

23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業-B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業(奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル)の援助を受けた。

引用文献

- Gaither, M. R. and J. E. Randall. 2012. On the validity of the cirrhitid fish genus *Itycirrhitus*. *International Journal of Ichthyology*, 18: 219–226.
- 林 公義・萩原清司. 2013. ゴンベ科, pp. 1018–1021. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. *Bulletin of Cranbrook Institute of Science*, 26: 1–186, pls. 1–11.
- Kamohara, T. 1957. List of fishes from Amami Oshima and adjacent regions, Kagoshima Prefecture, Japan. *Reports of Usa Marine Biological Station, Kochi University*, 4: 1–65.
- 本村浩之 (編). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 41. [URL](https://www.kagoshima-u.ac.jp/~fish/) (8 Aug. 2026)
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanaga-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- Randall, J. E. 1963. Review of the hawkfishes (family Cirrhitidae). *Proceedings of the United States National Museum*, 114: 389–451, pls. 1–16.
- Randall, J. E. 2001. Family Cirrhitidae. Hawkfishes, pp. 3321–3328. In: Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *Species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific*. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- Randall, J. E., J. T. Williams, D. G. Smith, M. Kulbicki, G. Mou Tham, P. Labrosse, M. Kronen, E. Clua and B. S. Mann. 2004. Checklist of the shore and epipelagic fishes of Tonga. *Atoll Research Bulletin*, 502: i–ii, 1–35.
- Rocha, L. A. 2016. Family Cirrhitidae. Hawkfishes, pp. 2686–2689. In: Carpenter, K. E. and N. de Angelis (eds.) *Species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the eastern central Atlantic*. Vol. 4. Bony fishes part 2 (Perciformes to Tetraodontiformes) and sea turtles. FAO, Rome.
- Shinohara, G. and K. Shibukawa. 1998. A rare cirrhitid Fish, *Amblycirrhitus unimaculatus* from the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of Natural Science Museum, Tokyo, Series A*, 24: 261–267.
- Siu, G., P. Bacchet, G. Bernardi, A. J. Brooks, J. Carlot, R. Causse, J. Claudet, E. Clua, E. Delrieu-Trottin, B. Espiau, M. Harmelin-Vivien, P. Keith, D. Lecchini, R. Madi-Moussa, V. Parravicini, Serge Planes, C. Ponsonnet, J. E. Randall, M. Taquet and J. T. Williams. 2017. Shore fishes of French Polynesia. *Cybio*, 41: 245–278.
- 瀬能 宏・矢野維幾. 1996. 今月の魚 クロホシゴンベ *Amblycirrhitus unimaculatus* (Kamohara). *伊豆海洋公園ダイビングニュース*, 7 (8): 1.
- Wass, R. C. 1984. An annotated checklist of the fishes of Samoa. NOAA Technical Report, National Marine Fisheries Service, SSRF-781: 1–43.